

JR東海の水収支解析モデルにおける静岡県とJR東海の認識の違い

静岡県の認識

(令和2年8月13日付 静岡県中央新幹線対策本部長から国土交通省鉄道局長への送付)

これまで、静岡県及び専門部会は、JR東海の水収支解析モデルについては、「上流域の水収支の概略の把握」のためには有用ですが、「トンネル湧水量の推定」や「トンネル掘削による河川流量の変化の推定」の精度には限界があるので、解析結果を確定値かのように扱うのではなく、「モデルの推定上の不確実性を認めた上で、解析結果を参考値として、どのように影響の評価と影響の回避・低減を行うかが重要である」ことを、JR東海に繰り返し説明してきました。しかし、JR東海は解析結果を確定値かのように扱うことを続けました。

静岡県：推定上のリスクがあることを認めた上で対処すべき

JR東海：水収支解析モデルによるトンネル湧水量の推定精度は高い。

この解析結果をもとに環境影響評価を行っているので、十分な評価となっている。